



公益財団法人 民際センター
2015 年度 活動報告書

2015 年 4 月 1 日～2016 年 3 月 31 日



目次

基礎教育奨学金事業／高校教育奨学金事業／学校施設整備事業	1
書籍普及事業／図書施設整備事業	2
学校教材支援事業／生徒教材支援事業／教師修士留学事業	3
少数民族教師養成事業／自転車支援事業／調査研究事業	4
給食普及事業／民際センター・サポートプログラム	5
特別教育奨学金事業／研修視察事業	6
経常支出国別内訳	7
わたしたちのポリシー	8

基礎教育奨学金事業

実施国

ラオス、カンボジア、タイ、ミャンマー、ベトナム

目的

経済的に恵まれない家庭の子どもたちに対して奨学金支援を行い、一人でも多くの子どもに基礎教育の機会を提供し、それが修了するまで支援すること。支援者には支援する奨学生の写真と報告書が現地事務所から届く。弊センターのメイン事業である。

対象

ラオス（小学校3～5年 および 中学校1～4年）、
カンボジア（小学校4～6年 および 中学校1～4年）、
タイ（中学校1～3年）、ベトナム（中学校1～4年）、
ミャンマー（中学校1～4年）

実績

ラオス奨学生	3,738名
カンボジア奨学生	1,276名
タイ奨学生	3,048名
ミャンマー奨学生	319名
ベトナム奨学生	364名



高校教育奨学金事業

実施国

タイ（高校1～3年）

実績

24名

学校施設整備事業

(A) 中学校校舎建設

実施国

ラオス

目的

校舎建設の対象を小学校から中学校に変更した。

小学校校舎に比べ圧倒的に少ない中学校校舎の不足が指摘されているラ



オスで、良質の校舎を建設し、より多くの子どもたちがよい環境で教育を受けられるように教育環境を整備する。

実績

2校（カムアン県ケムアン中学校とサワンナケート県ドンパイバン中学校）

(B) 女子寮建設

実施国

カンボジア

目的

中学校・高校の数の不足による通学距離の長さや治安の悪さにより、生徒達が安心して学校に通えるように、学校の敷地内に寮を建設する
2015年度は2棟が建設された。



書籍普及事業

実施国

ラオス、カンボジア

目的

本の入手が困難なラオスとカンボジアの小学校の子どもたちに、木箱に約100冊の本が入った図書セットを提供し、読書を通じて子どもたちの想像力や思考力を育み、あわせて国語能力の向上を図ること。

実績

ラオス123セット。初年度のカンボジアは66セット。



2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
223セット	208セット	121セット	154セット	189セット

図書施設整備事業

実施国

ラオス

目的

学校に図書館を併設することで、本に接する機会がほとんどない子どもたちの本を読む機会を増やし、学力の向上を図る。

実績

1棟（カムアン県）及び以前に建てた図書館で読書感想文コンテストを実施。

学校教材支援事業

実施国

タイ、ラオス

目的

タイやラオスの農村部の学校の多くは、教材やスポーツ用具が不足している。そのため、先生は学習の楽しさを伝える授業作りが難しく、子どもたちも学ぶ楽しさを十分に感じられずに授業を受けている。こうした学校に不足している教材などを贈り、学習成果の向上を図るとともに、子どもたちに学ぶ楽しさを知ってもらうことが目的である。

実績

タイ：15セット、ラオス：88セット

生徒教材支援事業

実施国

タイ、ラオス

目的

経済的に恵まれぬ境遇で学習する生徒たちに教材等を提供し、彼らの学習意欲の向上を促す。奨学金寄付者から支援する奨学生への提供希望にも応じ、支援者・奨学生間の交流を図る。

実績

タイ：111セット、ラオス：88セット

教師修士留学事業

実施国

ラオス

目的

全国公募から選抜されたラオス人高校教師らをタイ国立コーンケン大学に修士留学させ、ラオスの教育の質的向上を担う人材を育成する。卒業後、ラオスの教育機関で教科書や教師用マニュアルの改善にかかわり、ラオス全土での均一化された国際水準の教育の実現を図る。在学中の6名の学生が卒業する平成30年度にこの事業は終了する予定である。

実績

6名が在学中

少数民族教師養成事業

実施国

ラオス

目的

少数民族の教師志望の学生が教師免許を取得し、出身地域の学校で教えられるよう奨学金を提供することによって、言葉のハンディを負う少数民族地域の基礎教育の質の向上を図る。

実績

1年生 31名、2年生 16名がサワンナケート県とサラワン県の教師養成短大に在学中。



自転車支援事業

実施国

ラオス・カンボジア

目的

遠距離通学の生徒に自転車と修理道具を提供して、生徒が遠距離を理由に中学を退学することなく、卒業までの通学を支援する。

実績

ラオス 58台、カンボジア 50台



調査研究事業

(A) コンピューター教室調査事業

実施国

ラオス

目的

ラオスの学校にコンピューター教室を提供し、子ども達が基本的なコンピューター操作能力を備えること。

実績

昨年度の2校に続き、今年度は3校目(ビエンチャン・サティッド高校)にコンピューター教室が提供された。

(B) インターネット・フレンドシップ校交流事業

実施国

タイ

目的

日本とタイの中高校をインターネットでつなぎ、交流を行う事業。次世代を担う日本とタイの若者の国際相互理解の促進を図る。

実績

各国 20 校が事業に参加して本格実施。1 月にはタイから参加中学校の担当の先生を招へいして東京にて事業説明会を行い、また、交流相手校を訪問して交流を深めた。



給食普及事業

実施国

ラオス

目的

給食制度のないラオスの小中学校で農業を行い、その農産物を食材として使用したり販売したりして学校で無料のランチを提供し、生徒の体力の向上と健康の改善をはかる。事業では、住民が自主的に活動に参加して住民の自立意識を形成することも狙いとしている。最終的には、ラオス全土での普及を目指す。

実績

今年度は3校のうち1校で食材の助成なし、2校は減額した助成金で給食の提供を実施したが、3校とも週1回ランチを提供した。学校で採れる農産物の増大を図るため、学校に農業専門家を招いてトレーニングを受け、また隣県の3つの農業試験場を訪問して実地講義を受けた。



国際センター・サポートプログラム事業

実施国

日本

目的

国際センターの活動をサポートする月1,000円から支援できる寄付プログラム。

実績

2,609,283円

特別教育奨学金事業

実施国

タイ

目的

委託を受け、バンコク、チェンマイで奨学金事業の運営を行う。成績が良いが貧しい境遇のバンコク、チェンマイの学生に奨学金を提供して高校・大学での勉学の継続を支援する。

実績

高校生・大学生71名に奨学金を支給した。

研修視察事業

実施国

タイ・ラオス

目的

旅行会社との提携による一般募集の旅行では、教育支援現場の視察・現地住民との交流支援などを目的としている。一方、支援者を対象とした旅行では、支援者が実際に支援している子どもに面会して交流したり、校舎の贈呈式に参加したりすることで支援の効果や必要性を実感していただくこと。

実績

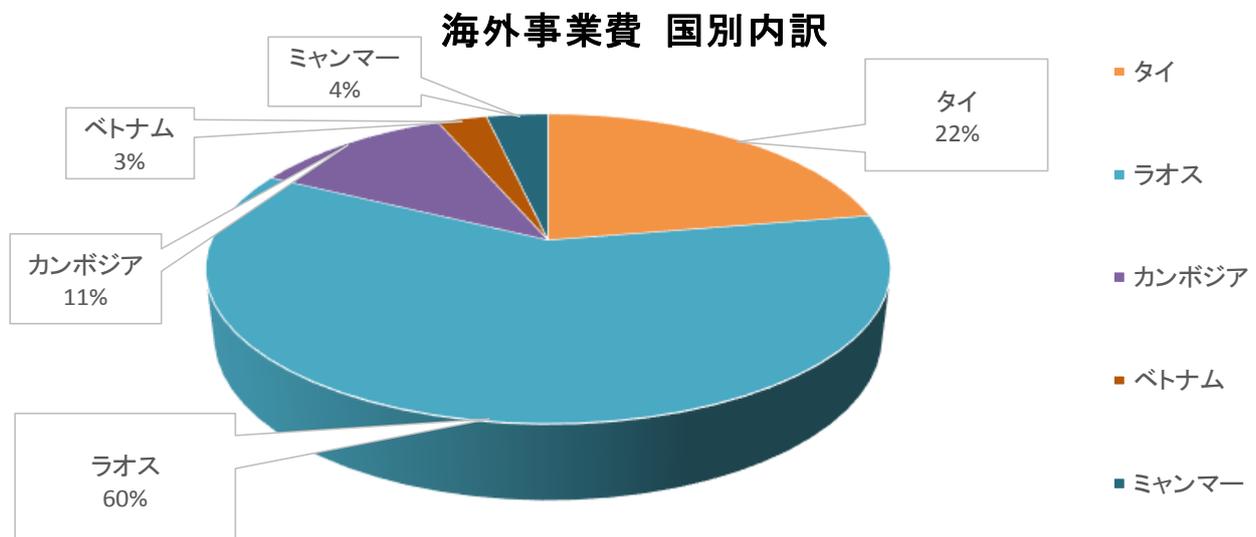
ラオス国際旅行の旅（旅行会社.主催）14名

個人視察：1名、団体視察：5団体

海外事業費 国別内訳

2015年4月1日から 2016年3月31日まで

科 目	タイ	ラオス	カンボジア	ベトナム	ミャンマー	合計
海外事業費活動費						
教育基盤事業						
-教育普及事業						
基礎教育奨学金事業	28,226,490	33,146,500	11,774,400	4,256,800	5,291,100	82,695,290
高等教育奨学金事業	615,000					615,000
特別教育奨学金事業	2,483,652					2,483,652
-教育普及事業						
学校施設整備事業		24,474,905	2,746,878			27,221,783
書籍普及事業		3,446,625	1,848,000			5,294,625
図書施設整備事業		7,859,150				7,859,150
学校教材支援事業	225,000	1,357,686				1,582,686
生徒教材支援事業	666,000	549,120				1,215,120
-教育内容拡充事業						
教師修士留学事業		6,700,000				6,700,000
教師養成事業		6,119,000				6,119,000
学校コミュニティ支援事業						
給食普及事業		2,625,000				2,625,000
自転車支援事業		913,500	824,940			1,738,440
調査研究事業						
調査研究事業	1,350,930	1,312,500				2,663,430
啓蒙啓発事業						
研修視察事業	411,354	3,052,426				3,463,780
合 計	33,978,426	91,556,412	17,194,218	4,256,800	5,291,100	152,276,956



わたしたちのポリシー

支援者の皆さまとともに

私たちは、経済的に貧しく学校に通えない子どもたちに教育支援をしたいというドナーの皆さまの想いを真摯に受けとめ、子どもたちの教育支援を行います。また、支援を受けた子どもたちの想いや成果を、支援者の皆さまに伝えることにより、1対1でつながる顔の見える支援を基本に、支援者の皆さまに支援の手ごたえや喜び、支援する子どもたちと繋がっている実感、ひいては生きがいを感じていただくことに全力を尽くします。

受益者（子どもたち）とともに

私たちは、先進国の目線で途上国を助けるという発想に立脚するのではなく、受益者、すなわち、子どもたちがその国の文化や風土を尊重した教育を受け、自立できる環境をつくることを目指します。政治的・宗教的背景による価値観の押し付けではなく、支援を受ける子どもたちのニーズに即し、彼らが自力で将来を切り開くために必要な教育支援を実施できるよう全力を尽くします。

時代・社会とともに

環境問題や社会問題が顕在化し、時代が大きく変化する中で、私たちは常に新しい国際貢献のあり方を模索していきます。私たちが行っている活動は特別な人による特別なことではないという考えに立ち、広く多くの人に支援の必要性を伝え、理解・共感していただくことを目指します。そして、たくさんの市民の力によって、全ての子どもたちが教育を受けることのできる世界づくりに全力を尽くします。

公益財団法人 民際センター

〒162-0801 東京都新宿区山吹町337 江戸川橋東誠ビル5F

TEL 03 - 6457 - 5782 FAX 03-6457-5783

info@minsai.org www.minsai.org

